

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

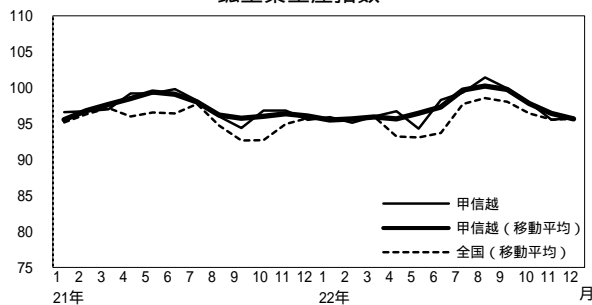
	前回 (令和4年11月)	今回 (令和5年3月)
景況判断	緩やかに持ち直している	<u>一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している</u>
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	<u>持ち直しの動きに足踏みがみられる</u>

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」や「電子デバ、電気・情報通信」が減少したこと等により、前期比 3.8% 減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
電子デバ、電気・情報通信	28.9	4.6	3.2	0.2	4.2	2.2
汎・生産・業務用機械	24.8	6.3	8.0	5.2	4.1	0.3
食料品・たばこ	12.0	3.1		3.8	1.4	
石油・石炭、化学、プラスチック	10.3	1.3	1.2	1.0	0.9	0.2
鉄業、非鉄金属、金属製品	8.8	1.0	2.1	1.4	0.2	1.2
鉱工業	100.0	3.9	3.8	2.0	2.5	0.3

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。
2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
3. 甲信越は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10 - 12月期、12月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

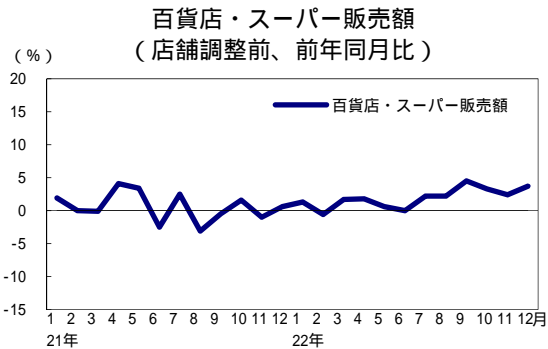
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12月期は前期比0.2%増となった。月別にみると、10月は前月比0.0%減、11月は同0.1%減、12月は同0.1%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比3.2%増となった。月別にみると、10月は前年同月比3.3%増、11月は同2.4%増、12月は同3.7%増となった。



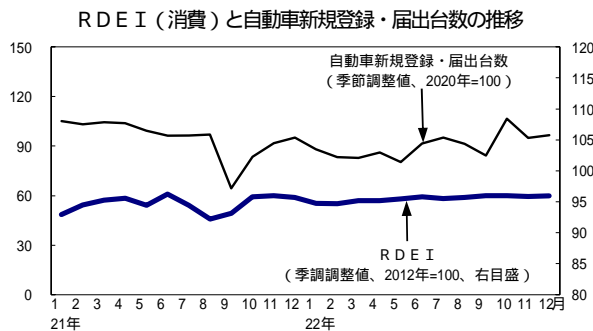
	2022年10-12月	2022年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.2	0.0	0.1	0.1
百貨店・スーパー(*2)	3.2	3.3	2.4	3.7
乗用車(*3)	9.6	27.4	3.6	0.8
(季節調整値)(*3)	10.1	26.4	10.8	1.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

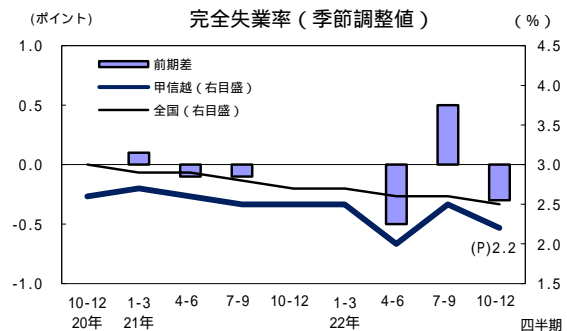
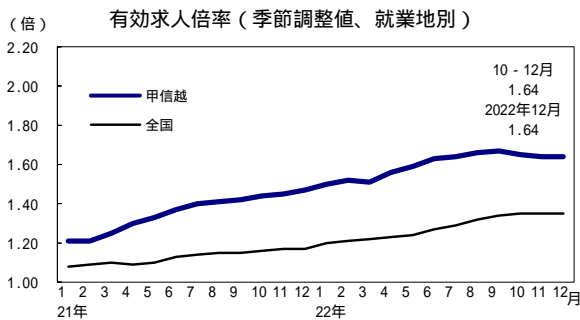
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比(%)



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整。

2. 10 - 12月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年1月調査）景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計動向関連	□	・若干ではあるが、新車の納期が改善され、客との商談も具体的にできるようになっている。ただし、一般整備や板金等に必要自動車部品が値上がりしており、客の希望にこたえるために工賃を安くして若干利益が下がるケースも出てきている（乗用車販売店）。
		▲	・1月のこの大雪で、期待していた新年会等の会合のキャンセルが相次いで、売上全体の5%ほどがキャンセルとなっている。宿泊も3か月前と比べて、全国旅行支援の勢いはない。1月はやはり、新型コロナウイルス感染症というよりも、降雪が大きく影響している（都市型ホテル）。
		○	・水際対策が緩和され、外国人観光客やスキー客が増加している（観光名所）。
	企業動向関連	□	・一時的ではあるが、部品納入待ちが解消されて生産は進んでいる。ただし、この先の部品納入にはめどが立っていないため、再び生産調整の懸念もある（電気機械器具製造業）。
		▲	・物価上昇は高止まり傾向であるが、今回の大雪で、活動がストップ状態である（建設業）。
		◎ ○	・受注量が増え始めており、人材確保を検討し対応している（食料品製造業）。
雇用関連	□	・求職条件のハードルが変わってきている。皆、慎重になっており、決めかねている方が多い（人材派遣会社）。	
	▲	・新型コロナウイルスの感染第8波に入り、宴会自粛などの影響で、飲食業やホテルの求人者が減少している。また、原材料不足や様々な価格の高騰、円安等の影響により、製造業でも求人が手控えられているようである（職業安定所）。	
その他の特徴コメント		□：若干感触は良いものの、足踏み状態である（一般レストラン）。 ▲：寒波による修理関係は増えてはいるものの、商材の動きは鈍い。これといった新商品が出ることもなく、出回る物のほとんどが値上げをうたっているなかでは、消費よりも買い控えとなる様子がうかがえる（一般小売店 [家電]）。	
先行き	家計動向関連	□	・全国旅行支援が3月で終了してしまうため、春の旅行客の集客についてはこれといったインセンティブがなく、動きに期待できない（観光型旅館）。
		▲	・今後も引き続き、物価上昇に伴う影響が個人消費の足を引っ張ると感じている（百貨店）。
	企業動向関連	□	・新生活に向けた販売増は期待できるものの、物価上昇による低価格志向の影響で、収益性が懸念される（電気機械器具製造業）。
		▲	・一般小売店舗への誘客や販売の復活が望まれるが、円安や材料価格の高騰、物を作るための電気代や資材の値上がりで、モノづくりには厳しい環境になっている。前年1月までの商材価格に比べて5割近く値上がりしている。店頭にはまだ旧価格の在庫商材が並ぶため、顧客も価格差に戸惑い、しばらくは買い控えが続く（その他製造業 [宝石・貴金属]）。
	雇用関連	□	・海外と取引のある企業は、製造業を中心に堅調な傾向にある（民間職業紹介機関）。
その他の特徴コメント		○：新型コロナウイルス感染症の分類が5類に変更になれば、人の動きが制限されないもので、これからは良くなっていく（コンビニ）。 ○：新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や物価高は変わらないものの、各企業が賃金のベースアップを検討しているようである、実際、大企業で賃金を上げているケースが増えてきているので、今後はやや良くなる（職業安定所）。	

(D I) 現状・先行き判断 D I（甲信越）の推移（季節調整値）

